

春のヒグマ注意特別期間

4月6日(土)～5月6日(月)

ヒグマに注意

ヒグマ出没中



注意!!

- 一人では入林しない。
- 薄暗いときは入林しない。
- 音を出しながら歩く。
- 生ゴミは持ち帰る。

平成 年 月 日
出没確認

人身被害を未然に防ぐため
ヒグマとの遭遇に注意しましょう。

ヒグマと遭遇しないために

- ヒグマの出没情報に注意する。
- 一人で野山に入らない。
- 鈴などで音を出しながら行動する。
- 薄暗いときには野山に入らない。
- フンや足跡を見つけたときは引き返す。
- 生ゴミは必ず持ち帰る。

ヒグマによる人身被害を防ぐために

春のヒグマ注意特別期間

北海道には、ヒグマが広く分布・生息しています。人身被害を防ぐため、ヒグマとの遭遇に注意しましょう。特に野山に入る際には、常にヒグマと遭遇するものとして行動することが求められます。春には、山菜採りなどのレジャーのため、野山へ出かけることが多くなりますが、ヒグマによる人身事故を未然に防ぐため、次のことに注意しましょう。

ヒグマと遭遇しないために

人身被害を未然に防ぐため、ヒグマと遭遇をしないための対策をしましょう。

- 野山に出かける前に、市町村役場にヒグマの出没情報を確認しましょう。
- 出没情報のある場所や、出没を知らせる看板のある場所には入らないようにしましょう。
- 野山には仲間と一緒に入り、一人にならないようにしましょう。
- 「クマよけの鈴」を鳴らしたり、仲間と大きな声で会話するなど、音で人の存在や接近をヒグマに知らせ、ヒグマとの突発的な遭遇を防ぎましょう。
- ヒグマのフンや足跡などを見つけたときは、すぐにその場を離れ、引き返しましょう。
- 早朝や夕方、悪天候などで薄暗いときには、人もヒグマも相手の存在に気づくのが遅れ、突発的に遭遇することがあるので、野山に入らないようにしましょう。
- 危険なヒグマを作り出さないため、ゴミや残飯は持ち帰りましょう。
- 人身事故にあった場合に備え、家族や知人に、野山に入ることを知らせておきましょう。

ヒグマと遭遇してしまったら

ヒグマと遭遇したときに慌てて行動すると、ヒグマを刺激し、大きな事故につながります。まず落ち着いて状況を判断しましょう。

- 急に大声をあげたり、急な動きをすると、ヒグマを刺激するので危険です。
- 慌てて走って逃げると、追いかけてくるので危険です。
- ヒグマが自分に気付いていないようであれば、静かにその場を立ち去りましょう。
- ヒグマとの距離が近い場合は、ヒグマから視線をそらさず、動きを見ながら、ゆっくりと後退してください。
- リュックサックなど、ヒグマに奪われた持ち物を取り返すのは非常に危険です。あきらめましょう。
- 子グマを見つけても、必ず近くに母グマがいるので絶対に近づいてはいけません。
- ヒグマと遭遇した場合に備え、クマ撃退スプレーなどを携行しましょう。

ヒグマの出没を防止するために

近年、都市近郊や人里周辺でのヒグマの出没が増えています。ヒグマは一時の出没をきっかけに人里を利用可能な環境であることを学習すると、その後も出没を繰り返すようになります。また、ヒグマの出没が増えると、人との遭遇の機会も増え、人身被害を引き起こす危険が高まります。

このため、ヒグマが生息している地域では、出没を防止するための対策を行うことが非常に重要です。

- ヒグマが生息する森林に近接した地域では、ヒグマをおびき寄せることのないよう、生ゴミや保存食などを適切に管理しましょう。
- 農地や果樹園では、ヒグマの侵入や被害を防止するため、電気柵を設置するなどの対策を行いましょう。また、ヒグマをおびき寄せ、エサとして利用されることのないよう、未収穫物や収穫残渣、放置果実や廃果を適切に処分しましょう。
- 家畜飼料は、ヒグマにエサとして利用されることのないよう、頑丈な施設で保管しましょう。また、こぼれた飼料を除去しましょう。